

小林人

こばやしびと
Vol.38



上 少年野球のコーチも務める。野球を通し、何事にも全力を尽くすことを教えている下 実行委員会のメンバー。おそろいのポロシャツの背中には「山魂」の文字。須木の若者の底力を見せるという思いを込める

すきむらんど滝まつり

日時/5月3日(土曜) 9:00~
場所/すきむらんど広場
イベント内容/
山びこ市、ステージイベント、魚のつかみ取り、ウォークラリー、抽選会などが行われる予定。



普段は、笑顔の絶えない永迫さん。しかし、話し合いでは一変。思いの強さから口調がよくなることも



「若い人が少ないと言っ
てさみしくなるより、若者
で須木を支えていきたい」
その思いを胸に、地域を
盛り上げようと日々奮闘す
る若者がいる。
永迫将成さん、26歳。
普段は、きゅうりを生産
する農家。忙しい仕事の合
間に、すきむらんどイベン
ト実行委員会、少年野球の
コーチや消防団などの活動
に力を注いでいる。
イベント実行委員会は、
主に滝まつりや栗まつりの
運営を行っている。この2
つのイベントは、地域住民
で作り上げてきた須木を代
表する伝統行事。昨年から

実行委員長を務め、中心と
なり活躍している。
実行委員会の仲間富永
圭一さんは「負けず嫌いで、
何事にも一所懸命な男。そ
して、誰よりもこの地域の
ことを考えている」とふる
さとへの思いとひたむきさ
について語る。永迫さん
とつても、富永さんを含め
た仲間たちは、その思いに
賛同し活動している。
永迫さんは以前から、「須
木では青年団など若者の活
動が少ない」と感じていた。
そして4年前、同じ思いを
持つ8人の若者を見つけた
地元の先輩が、実行委員会
に入るよう勧めた。そして、

そこで活動するうちに「先
輩が作り上げてきた須木を
受け継ぎ、僕らが繋がない
と」と使命感にも似た思い
が芽生えてきた。
しかし当初は、知識も経
験もなく、助言はもらうも
のの何もかもが試行錯誤。
時間があれば集まり、意見
の食い違いからけんかにも
なった。なかなか前に進ま
ず、ばらばらになりかけた
ことも。それでも、「須木
を盛り上げたい」という初
心は忘れないと言いつつ
せ、奮闘し続けた。「最初
のまつりは、忙しすぎて何
をしたか覚えてない。でも、
地域の人たちによかったと

言われ達成感を感じた」と
当時は振り返る。
そして経験を積み、魚の
つかみ取りや消防団の車両
展示など新しいことにも挑
戦。しかし、満足はしてい
ない。「もっと地元の人
の心に残るまつりにしたい」
と思いを語る。現在は、5
月に開催される滝まつりに
向け、準備の毎日だ。
目指す先は何か問いか
けると「僕らがそうであつた
ように、子どもたちの記憶
に残る背中にならないとい
けないし、そうあり続けた
い」。山魂と書かれた背中
は、須木にそびえる山々よ
りも大きく見えた。

先輩が作り上げてきた須木を 僕らが受け継ぎ、次代に繋ぐ

すきむらんどイベント実行委員長
ながさこまさなり
永迫将成さん